

2025 年度 後学期 教養教育		日英区分 :日本語	
Webアプリケーション開発入門			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2344	LB-1-AS0048-J	【教養教育】学びのリテラシー（２）	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
小川 康一 [Ogawa, Koichi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

本授業では、社会において広く利用されている情報システムやサービスについてのなり立ちや動作原理を学び、これらの背景にある技術要素についての理解を深めるとともに、自ら基本的なWebアプリケーションを組み、実際の動作を確認出来るようになることを目的とする。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ ■ 授業の到達目標

Webサービスの仕組みを理解し、説明ができる。
PHPとMySQLを用いて基本的なWebアプリケーションを構築できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 -

■ ■ 授業概要

情報システムやWebサービスについての知識を得るとともに、これらの背景にある技術要素について理解し、自ら基本的なWebアプリケーションを開発する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

授業の前半は、講義により情報システムおよびWebサービスについて学び、都度各自のPCにより演習を行う。
授業の後半は、何名かで構成するグループに分かれ、普段感じている課題や不便さについて話し合い、これを解決する独自の新しいシステムやサービスについて、調査、議論、検討を行う。
独自に検討したシステムについて、できるだけ実際に実装を行い、その機能や効果を検証する。
最終成果は、講義内でグループごとに発表を行う。

■ ■ 授業スケジュール

第1回 ガイダンス・イントロダクション
第2回 環境設定・ソフトウェアインストール
第3,4,5,6回 PHPによるプログラミング
第7,8回 データベースについて、MySQL（MariaDB）のインストール、PHPからのデータベースの利用
第9,10,11,12,13、 14回 PHPアプリケーションの実装、グループワーク
第15回 グループ発表

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

課題を出しますので、自ら積極的にアプリケーションを作成し、できたものがどのような動きをするか確認すること。
後半は、Webサービスの調査、開発についてグループで協力して取り組むこと。
なお、授業時間内だけでは、全ての知識を網羅することは困難であるため、動画コンテンツや補助教材を利用し、プログラミングを行ったことがない学生に対する配慮を行う予定である。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

小テスト （20点） A, B
グループ評価（20点） A, B, C
最終課題 （40点） A, B, C
教員評価 （20点） A, B, C

■ ■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。
OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

■ ■ メッセージ

自分で実際にやってみないと分かりません。手を動かしてどのような動作をするか確認してください。
可能であれば習得した方法を使って自分でプログラムを作ってみましょう。

■ ■ キーワード

Webアプリケーション、プログラミング、PHP、データベース、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

情報、Linuxリテラシー入門

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

教科書

参考書

参考書1	ISBN	4295201103			
	書名	初心者からちゃんとしたプロになるPHP基礎入門			
	著者名	柏岡秀男 著, 柏岡, 秀男,	出版社	エムディエヌコーポレーション	出版年 2021
	備考				

教科書・参考書に関する補足情報

参考書の購入は必須ではありませんが、記載内容に沿って講義します。
中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3112>

授業言語

参考書・資料：「日本語」
講義・討論：「日本語」

2025 年度 後学期 教養教育			日英区分 :日本語
ひとを理解すること			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2431	LB-1-AS0066-J	【教養教育】学びのリテラシー（２）	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
上星 浩子 [Jouboshi, Hiroko]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

本講義では、「ひとを理解することはできるのか」「相手の立場になって考えることはできるのか」という問いに対し、ひとを理解することの意味、ひとの持つ多様性、ひとに影響を与える要因等について考え、ひとの理解、人間関係の基盤を学ぶ。また「聞き書き」という手法を通し、対象の気持ちに気づき、感じ取る能力を獲得する。
本講義の目的は、ひと（対象）を理解するために必要な知識やスキルを獲得するために文献や資料、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを通して人間関係の基盤を理解することである。

■ ■ 授業の到達目標

1. 自分自身について客観的に理解し、その内容を記述できる。
2. ひとを理解する意味について考えることができる。
3. ひとの持つ多様性について説明できる。
4. ひとに影響を与えている因子について考えることができる説明できる。
5. 「聞き書き」を通して対象の気持ちに気づき、感じ取ることができる。
6. ディスカッションを通してメンバーのもつ様々な見方、考え方に出会い、ひとの持つ多様性について体験できる。
7. グループメンバーと協力し、他者に伝わるプレゼンテーションができる。
8. グループディスカッション、プレゼンテーション、聞き書きを通してひとを理解することの必要性を説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解○
B：論理的・創造的思考力○
C：コミュニケーション能力○
D：社会的倫理観・国際性○

■ ■ 授業概要

看護の対象は人間であり、「病気を理解する」だけでなく、「病気を持つひとを理解する」、「相手（患者）の立場に立って考える」ことが重要であるといわれる。しかし、病気を持つひとの理解、自分でない相手の立場になることはなかなか難しいことである。ひとを理解するとはどのようなことか。ひとを理解することの意味、ひとの持つ多様性、ひとに影響を与える要因等について考え、ディスカッションを通してひとを理解しようとする思いや、ひとのもつ様々な見方、考え方に出会い、人間関係の基盤を学ぶ。さらに「聞く（聴く）」「語る」ことの意味や「聞き書き」という手法を通し、対象の気持ちに気づき、感じ取る能力を獲得することを目指す。

看護師の実務経験のある教員が、その実務を活かして、ひとを理解することの意味や方法について授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義、グループワーク、ディバート、フィールドワーク、プレゼンテーション、課題レポート

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	イントロダクション ひとを理解することはできるのか？（講義） 「このひと、どんな人？」：自己理解と他者理解
第2回	グループディスカッション①（講義・演習） ひとを「知る」「理解する」ことの意味
第3回	グループディスカッション②（講義・演習） 「ひとの多様性」とは？
第4回	グループディスカッション③（講義・演習） 「ひとに影響を与えている因子」は何か？
第5回	グループディスカッション④（講義・演習） 「相手の立場に立つ」とはどのようなことか？「相手の立場に立つ」ことはできるのか？ ディバートの方法
第6回	ディバート①（演習）
第7回	ディバート②（演習）
第8回	グループディスカッション⑤（講義・演習） ひとを理解するための方法
第9回	聞くこと、語ること、書くことの意味①（講義） 「聞き書き」について
第10回	聞くこと、語ること、書くことの意味②（演習） 「聞き書き」について
第11回	「聞き書き」ワーク①（演習）
第12回	「聞き書き」ワーク②（演習）
第13回	「聞き書き」ワーク③（演習）
第14回	「聞き書き」ワーク④（演習）
第15回	プレゼンテーション：「聞き書き」を行ってみて・まとめ
第16回	最終試験：レポート課題の提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

毎回の課題、ディスカッションに対し、様々な文献や資料、書籍を読むこと、プレゼンテーションの準備、聞き書き、レポートを行うための時間が必要となる。

成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

毎回の課題（20%）：A・B
グループディスカッション・プレゼンテーション（20%）：A・B・C・D
「聞き書き」産物（30%）：A・B・C・D
レポート（30%）：A・B・D

成績評価は、S（90-100点）、A（80-89点）、B（70-79点）、C（60-69点）、D（59点以下）とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし問題の難易度によって点数を調整する場合がある。

受講条件（履修資格）

常にリサーチエスションを持ち、考え、調べ、グループディスカッションに積極的に参加することが条件となる。

メッセージ

自分でない他人、ひとを理解すること、対象の立場になって考えることはとても難しいことです。ひとの多様性について考え、そのひとを理解するにはどうしたらよいのか、皆さんで考えていきたいと思っています。
また、グループワーク、ディスカッション等でパソコン等を使用するため、ご準備ください。

キーワード

ひとの理解、多様性、聞き書き、実務経験、アクティブラーニング

この授業の基礎となる科目

学びのリテラシー 1

次に履修が望まれる科目

各学部の特設科目

関連授業科目

特になし

教科書

参考書

参考書1	ISBN	978-4901483537					
	書名	「聞き書き」をはじめよう					
	著者名	小田豊二著	出版社	木星舎	出版年	2012	
	備考						

参考書2	ISBN	978-4901483759					
	書名	ワークブック「聞き書き」をはじめよう					
	著者名	小田豊二著：原田悦子イラスト	出版社	木星舎	出版年	2014	
	備考						

教科書・参考書に関する補足情報

指定図書はないが、適宜、参考資料や図書を紹介する。

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2240>

授業言語

使用言語：「英語でもできる」
配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 後学期 教養教育		日英区分 :日本語	
知っておきたい肺とアレルギーの話			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2209	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
久田 剛志 [Hisada Takeshi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出す臓器である。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本的知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に着けることができるようになる。以上のことを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。
以下を到達目標とする。
基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 △
D：社会的倫理観・国際性 △

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ ■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。
呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ ■ 授業スケジュール

全担当：久田剛志【実務家教員】

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしよう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけよう
第5回 睡眠中に息がとまってないですか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスコミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験
※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。
毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。
試験は記述式問題が中心であり、プリント、資料内容を理解していれば解答できる。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

各回で課せられたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などを総合的に評価する。
基本的理解 A・B・C
レポートの適切な記載 A・B
履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

最終レポート（70％）、各授業における課題（30％）（A,B,C,D）で評価する。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2552>

■ 授業言語

使用言語：「英語でもできる」

配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 前学期 教養教育			日英区分 :日本語
生命保険の仕組みと利活用を考える			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1279	LB-1-IS0041-J	【教養教育】総合科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 天野 智英 [Amano, Tomohide]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ ■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ ■ 授業スケジュール

1：オリエンテーション・総論
2：生活設計とリスク管理
3：生活設計と社会保障
4：公的保障と生保(死亡・医療)
5：公的保障と生保(老後・年金)
6：隣接業界・生保の組織・業務
7：グループディスカッション①
8：生保商品の変遷・動向
9：生保の資産運用
10：生活設計と資産運用
11：生命保険と税金
12：トラブル・災害対応とSDG'sへの取り組み
13：グループディスカッション②
14：グループディスカッション② 発表
15：総括（小テスト）
※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において必要です。復習として小レポートの課題を行い提出する。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

<対面授業の場合>
授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」70点（A,B,C,D）
「最終試験得点」30点（A,B,D）で評価します。
最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。
・社会保障制度の概要の理解
・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解
小レポート（A,B,D）、グループディスカッション（B,C）では、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。
<オンライン授業となった場合>
毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。
最終試験は実施ませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ ■ キーワード

公的保障と私的保障，公助と自助，生活設計，リスク管理，実務経験のある教員

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2588>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語のみ
講義・討論：日本語のみ

2025 年度 前学期 情報学部		日英区分 :日本語
憲法 1		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
JB3001	JB-2-SC3001-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
藤井 正希 [Fujii Masaki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ～	2

■ ■ 授業の目的

憲法の人権分野を体系的に学ぶことにより、高度情報社会の特質を専門的・多角的に読み解く力や問題解決能力をつけるとともに、多角的な視点から問題を探求する姿勢や社会情報学的な思考方法を醸成する。そして、それを通じて、社会人になってからも仕事や生活に活かすことができる基本的人権についての憲法的素養の習得を目的とする。具体的には、憲法という科目は公務員試験や行政書士試験等の国家試験において必修の試験科目として課されることが多いが、このような試験を受験する学生が十分に合格できるレベルを目指す。

■ ■ 授業の到達目標

社会人になってからも仕事や生活に基本的人権についての憲法的素養を活かすことができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

国家の根本法であり最高法規である日本国憲法の基礎的知識および憲法的思考力を身につけることにより、①情報社会に生起する組織や地域社会の諸課題への関心や、その解決への意欲を持つことができ、また、②科学的・批判的に思考・判断する能力や、自ら得た知見を分かりやすく説明・伝達する能力を備えることができる。これにより、社会や人間を深く理解し、広い視野で物事を捉えることのできる人間となる。

E：情報社会の諸課題の理解と情報学的知の活用能力 ○
F：社会組織や制度に対する知識と社会科学的分析能力 ○
G：データサイエンスの基礎知識と社会実装提案能力 △
H：情報技術を創出し活用するための知識基盤 △
J：社会科学の知見を活用した課題発見能力とシステム（制度）構築の提案能力 ○
（○：特に重視する ○：重視する △：評価対象 －：評価対象としない）

■ ■ 授業概要

憲法の基本的人権は、国民生来の権利・自由を学ぶ法分野である。国民の幸福を実現するために、日本国憲法がどのような権利・自由を保障しているのかについて、憲法体系に沿って概観していく。この点、まず立憲主義、個人の尊厳（個人主義）、人権の概念、人権の国際化等の人権の基本原則を学習した上で、平等権、自由権、社会権を理解することが最大のテーマとなる。人権の分野では、とりわけ自由権と社会権の異同を理解することが重要となる。さらに、幸福追求権や受益権、参政権等が考察の対象となる。学生の主体的参加が望まれる。
（行政書士の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、人権問題の授業を行う）

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義中心だが、適宜、討論会や学生発表も行う。

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	憲法と立憲主義
第2回	人権とは何か
第3回	人権の享有主体性
第4回	公共の福祉の概念
第5回	私人間の人権保障
第6回	幸福追求権と新しい人権
第7回	法の下の平等（平等権・平等原則）①
第8回	法の下の平等（平等権・平等原則）②
第9回	自由権①
第10回	自由権②
第11回	自由権③
第12回	社会権①
第13回	社会権②
第14回	社会権③
第15回	受益権と参政権
第16回	期末試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

まずは高校の現代社会や政治経済の教科書における憲法の解説部分をもう一度熟読してほしい。

憲法の条文を通読してほしい。

下記に指示する教科書を予習・復習で熟読してほしい。

レジュメ等が配布された場合には、必ず復習で再読してほしい。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

期末試験の成績を基本とし、平常点（受講態度など）を加味して評価する（期末試験の成績を最も重視する）。任意提出のレポートは加点事由とする。

憲法的な基礎知識を理解し、説明できる（40点）E・F
物事を憲法的な観点から思考できる（20点）E・F
物事を憲法的に論理づけ、分析できる（20点）E・F・J
憲法を応用し、他分野に活かすことができる（20点）E・F・G・H・J

■ ■ 受講条件（履修資格）

教養教育科目「日本国憲法」を履修していることが望ましい。
（ただし、履修していなくても問題はありません）

■ ■ メッセージ

私も一生懸命に講義するので、履修者も一生懸命に受講してほしい。
日本国憲法が定める緻密な人権の体系をぜひ味わってほしい。

■ ■ キーワード

包括的基本権、平等権、自由権、社会権、アクティブラーニング、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

小学校六年生の社会や中学校三年生の公民、あるいは高校の政治経済で学んだ憲法。教養教育科目「日本国憲法」。

■ ■ 次に履修が望まれる科目

憲法実現法ともいわれる行政法、民法、刑法、教育法など。

■ ■ 関連授業科目

行政法、行政学、政治学

■ ■ 教科書

教科書 1	ISBN	9784792306700					
	書名	憲法口話					
	著者名	藤井正希	出版社	成文堂	出版年	2020	
	備考						

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN	4535008302				
	書名	新・判例ハンドブック【憲法】第2版				
	著者名	高橋和之 編	出版社	日本評論社	出版年	2018
	備考					
参考書2	ISBN	9784641115453				
	書名	憲法判例百選Ⅰ[第7版]				
	著者名	長谷部恭男,石川健治,穴戸常寿 編	出版社	有斐閣	出版年	2019
	備考					
参考書3	ISBN	9784641115460				
	書名	憲法判例百選Ⅱ[第7版]				
	著者名	長谷部恭男,石川健治,穴戸常寿 編	出版社	有斐閣	出版年	2019
	備考					
参考書4	ISBN	9784767002156				
	書名	マスメディア規制の憲法理論				
	著者名	藤井正希	出版社	敬文堂	出版年	2016
	備考					
参考書5	ISBN	9784792306656				
	書名	現代憲法25講				
	著者名	片上孝洋 編	出版社	成文堂	出版年	2020
	備考					
参考書6	ISBN	9784877987565				
	書名	はじめの一步 法学・憲法				
	著者名	松原幸恵, 飯島滋明, 榎澤幸広 編著	出版社	現代人文社	出版年	2020
	備考					

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

教科書『憲法口話』は必ず購入して、授業に持参してほしい。
参考書『新・判例ハンドブック【憲法】第2版』および『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』も
できたらぜひ購入してほしい（特に前者）。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

初回講義時に指示する。

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2357>

■ ■ 授業言語

教科書・資料 日本語

講義・討論 日本語

2025 年度 後学期 情報学部		日英区分 :日本語
政策情報論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
JB3002	JB-2-SC3002-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
小竹 裕人 [Kotake Hiroto]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ～	2

■ ■ 授業の目的

この授業は政策立案過程とその背景で関連する諸アクターの行動様式を学習するために存在します。皆さんが公民問わず将来政策過程に係わる際に政策分野での特徴を理解しつつ対応すれば、社会課題を解決するために政策過程を迅速にたどることができるようになります。

■ ■ 授業の到達目標

学生が、政策立案過程に登場する諸アクター（官僚、政治家、有権者など）の行動様式や相互関係を学習することで、学生は政策における立案過程を理解できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A. 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B. 論理的・創造的思考力 ◎
C. コミュニケーション能力 △
D. 社会的倫理観・国際性 -
E: 情報社会の諸課題の理解と情報学的知の活用能力 ○
F: 社会組織や制度に対する知識と社会科学的分析能力 ◎
G: データサイエンスの基礎知識と社会実装提案能力 -
H: 情報技術を創出し利活用するための知識基盤 -
I: 人文情報学的知識にもとづく課題策定と実践的理念の探索能力 -
J: 社会科学的知見を活用した課題発見能力とシステム（制度）構築の提案能力 ◎
K: データの収集・分析と数理最適化による課題解決能力 △
L: 計算や情報に関する知識と計算機に関する技術開発能力 -

■ ■ 授業概要

教員は、公共政策論・政策分析で扱う「政策」が、誰のためにそしていかに形成されていくのか、さらにその過程でバイアスがかかるのかを経済学的手法を用いて説明する。

行政相談員制度から社会の問題を把握し政策立案へと導く過程について、群馬行政監視行政相談センター職員と行政相談員が行政の実務経験からお話いただく(12回目を予定)

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式を基本とします。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
第2回 公共財の考え方
クラブ財の理論
第3-4回 政策評価の方法（1）
パレート最適
第5-6回 政策評価の方法（2）
カルドア基準 シトフスキー基準 バークソン・サミュエルソン社会厚生関数
第7回 公共選択的合意形成(1)
投票の種類 メイの定理 投票のパラドックス アローの不可能性定理 不可能からの脱出その1・2
第8回 公共選択的合意形成(2)
多数決ルールの弊害 ログ・ローリング 全員一致ルール 最適多数
第9-10回 投票者の理論(1)
有権者の目的とは 中位投票の理論 政策立案にかかわるプレイヤー
第11回 投票者の理論(2)
社会動員仮説、合理的投票仮説、ライカー＝オードシュック・モデル
第12回 群馬行政監視行政相談センター職員と行政相談員からお話を伺う。（実務経験者）
第13回 官僚行動理論
Niskanenモデル ミゲュー＝バランジェ・モデル X非効率性 情報偏在型モデル Incrementalism 合理的踏襲モデル
第14回 政策立案の一つの形式 行政相談員制度から(実務経験のある教員による授業)
行政相談員制度から社会の問題を把握し政策立案へと導く過程について、群馬行政監視相談センターと行政相談員による授業
第15回 各論(1) 代議制民主主義
その制度的欠陥について ブレトンの議論 フルラインサブライ 国民のニーズの把握
第16回 各論(2) 政党の私的行動
政治的景気循環 政治による景気循環 党派的景気循環

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

毎回、授業時間90分に対して180分の予習復習が必要である。Moodleに掲載される今回の授業内容を予習するとともに、授業内容の復習を次回までに行うこと。講義で扱われる理論は社会の一側面のみを分析したものに過ぎない。受講者は新聞を読むなどして理論が実社会に対してどのように適用できるのか考えて欲しい。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

発言点10点（完全対面時のみ）

中間試験40点（完全対面でない場合は50点） DP A,B,E,F

期末試験50点 DP A,B,E,F

以上の観点から評価します。

中間試験は答案のコピーを返却し解説します。中間試験・期末試験はWebで各自への簡単なコメントと詳細な採点結果を還元します。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

■ キーワード

政策形成プロセス, 住民と官僚, 合意形成, 経済学的分析, 実務経験

■ この授業の基礎となる科目

ぐんま未来学2（地域問題を考える）：LB2442

■ 次に履修が望まれる科目

政策分析

■ 関連授業科目

■ 教科書

備考	Moodleに掲載するレジュメをもとに講義を進めます。
----	-----------------------------

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

特に指定しない。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=840>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2025 年度 後学期 情報学部		日英区分 :日本語
仕事の現場を知る A		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
JB6002	JB-2-CE6002-J	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
杉山 学 [Sugiyama Manabu]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ～	2

■ ■ 授業の目的

本授業は、東和銀行が保有の金融ビジネスに関する専門知識やノウハウを活用した社会貢献活動の一環として、同行の第一線で活躍する企業人（実務経験のある非常勤講師）による実践的な授業を展開するものである。

本授業では、金融ビジネスの第一線で活躍する講師の現場目線の話を通じて、金融分野に進路を定めている学生はもとより、大学入学後に自分の進みたい方向（仕事）が分からずに悩んでいる学生にとっても、自分のキャリアプランを形成するためのヒントを得ることや、授業で得た知識によって社会に出てから自らの能力を引き出すことを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

地域経済、金融ビジネスなどに対して多少でも関心を有していれば、誰でも基礎知識を理解できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A: 諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B: 論理的・創造的思考力 ○
C: コミュニケーション能力 ○
D: 社会的倫理観・国際性 ○
本学部のディプロマ・ポリシーのEとFと特に関連した講義となる。
E: 情報社会の諸課題の理解と情報学的知の活用能力 ○
F: 社会組織や制度に対する知識と社会科学的分析能力 ○
G: データサイエンスの基礎知識と社会実装提案能力 △
H: 情報技術を創出し活用するための知識基盤 △
（○：特に重視する、○：重視する、△：評価対象、一：評価対象としない）

■ ■ 授業概要

現代の金融ビジネスは、実体経済と深く密接に関わっている。

金融ビジネスの第一線の現場で活躍する講師（実務経験のある非常勤講師）から現場目線の生きた話を直接聞くことは、大学卒業後に社会人として求められる最低限の知識であるわが国の経済問題、社会問題、国際問題などについての理解を深くするだけでない。

金融ビジネスについて学んでいくことは、受講生が自分にあった仕事を見つけるための能力を身につけるとともに、その先の自らのキャリアプラン形成、さらには身近なライフプランを実りあるものにしていくためにも必要なことである。

この科目では、受講者が興味を持って、金融ビジネスを理解するための思考力を身につけることを目的とする。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

東和銀行担当者（実務経験のある非常勤講師）による講義形式（集中講義）による。

■ ■ 授業スケジュール

下記の内容を集中講義により、実務経験のある非常勤講師にて行う。

第1回：オリエンテーション、講義概要
第2回：少子高齢化と地域金融機関
第3回：金利のメカニズムと外国為替
第4回：家計の資産形成と地域金融機関
第5回：地域経済の発展とリレーションシップバンキング
第6回：リレーションシップバンキングの現場（お客様応援活動）
第7回：地域金融機関における企業再生支援
第8回：日本経済と財政・金融政策
第9回：経済成長と地域金融機関
第10回：地域社会と金融機関
第11回：金融機関とITおよびフィンテック
第12回：地域のグローバル化と地域金融機関
第13回：女性の職場としての地域金融機関
第14回：世界経済の潮流
第15回：講義のまとめ

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

予習と復習として、新聞や雑誌などの金融面、経済面、社会面を読み、課題を行う。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

学習状況（レポート60点：E,F,G,H、あるいはミニテスト40点：F）を総合的に判断して評価する。
S評価は 90点以上で、かつ、クラスの5%未満である学生。A = 80-100. B = 70-79. C = 60-69. D = 0-59。

■ ■ 受講条件（履修資格）

特にありません。

■ ■ メッセージ

この授業は、地域と経済、金融との関わりについて理解することを目的としています。したがって、講義で話したことだけを単純に覚えるのではなく、金融経済、国際経済、地域経済、金融ビジネスにおける個々の内容の相互的な関係を自ら考えて活用していくことが求められます。

■ ■ キーワード

金融経済、国際経済、地域経済、金融ビジネス、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

特にありません。

■ ■ 次に履修が望まれる科目

特にありません。

■ ■ 関連授業科目

特にありません。

■ ■ 教科書

備考	特定の教科書は用いず、資料などを配布する。
----	-----------------------

■ ■ 参考書

備考	金融と経済の入門テキストで、自分が内容を理解できる本。必要に応じて紹介する。
----	--

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

必要に応じて講義内容と演習のプリントを配布する。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=938>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語のみ
講義・討論：日本語のみ